

光が丘周辺地域小・中学校の 学習環境のあり方検討協議会

ニュース

平成 31 年 4 月発行
光が丘周辺地域小・中学校の
学習環境のあり方検討協議会

第 3 号

はじめに

光が丘地区 4 小学校では、児童数が減少傾向にあります。児童数の推計では、これから 1 学年 1 学級のための学年が発生し、過小規模化が進むと予測されています。

こうしたことから、学習環境のあり方の検討を行うため、平成 30 年 8 月 7 日に「光が丘周辺地域小・中学校の学習環境のあり方検討協議会」を設置し、検討してきました。

平成 31 年 3 月 14 日に開催した第 4 回検討協議会では、光が丘周辺地域の小・中学校の課題のうち、「学区に関する課題」をテーマに、グループワークで検討しました。

小学校と中学校の学区が一致していないことや、学区と自治会区域や公民館区域の整合が図られていない地域があること、通学距離や交通状況の観点から、学区についての話し合いを行いました。

学区・小中一貫教育（学区に関する課題）について

【小学校と中学校の学区】について

現状の良い点

- ・中学校に入学して、隣の小学校から入学した新しい友達ができ、人間関係が広がる。
- ・小学校と中学校が近い。・中学校を選択できる地域があるが、それも一つの方法。

現状での不安な点

- ・仲の良かった友達と、中学校入学時点で別れてしまうのはかわいそう。
- ・学年の人数が少ないのに、中学校が分かれてしまうのは不安。
- ・中学校により学校規模に差が出て、生徒の人数で部活の種類・選択肢が制限される。
- ・学区が選べる地域があると、皆が行く学校に行ってしまうのか。何を基準に判断すれば良いのか、選択するのは難しい。

解決に向けて

- ・学区を見直す。・1つの学校に統合して、通学距離が長ければ、スクールバスを出す。
- ・近隣の中学校の規模を同等にして、部活等の差を無くしていく。

【自治会区域と学区、公民館区域と学区】について

現状の良い点

- ・自治会区域と学区はほぼ一致しており、問題は共有できる。
- ・組織が確立されていると、登校班で通学し、見守り隊がいてくれて、安心。

現状での不安な点

- ・見守り隊がない所もあるし、見守り隊が高齢化し、若い人達の参加が欲しい。

- ・公民館区と学区が一致せず、光が丘公民館は、青葉小学校以外は学区外。
- ・公民館のイベントに、他の学区の子が行けないのは、淋しい。
- ・自治会区域で学区が決まっていると、近い学校でなく、遠い学校に通うことがある。
- ・児童数が少ないと、登校班の児童数も少なくなり、役割が薄れてしまわないか。

解決に向けて

- ・学区を見直す。・学区外でも地域が見守る。・学区外の公民館を利用しやすいルールとする。

【通学距離、交通状況】について

現状の良い点

- ・学校が多く、通学距離は全体的に短い。
- ・児童が村富線を横断する時、先生や見守り隊の方の協力ありがたい。

現状での不安な点

- ・学区と子どもの行動範囲が広くなると、道路に飛び出す確率も高くなり、不安。
- ・青葉小が近くにあるのに、通り越して並木小に行くのは淋しい。

解決に向けて

- ・距離を決めて、1番近く安全に通える学校に通う。
- ・交通安全対策、防犯カメラの設置が必要になってくるのではないか。
- ・通学路で、比較的交通量の多い道路にガードレールがないのであるといい。
- ・交通量の少ない道を利用して登校できないか。

今後の予定について

第5回以降の検討協議会では、これまでの検討協議会で積み上げてきた検討内容をふまえ、教育委員会からの課題解決策の案を提示し、光が丘地域の子供達にとって、望ましい学習環境について、具体的に検討を進めていきます。

各委員には、それぞれの選出母体において、意見集約などをしていただきます。

お知らせ

「光が丘周辺地域小・中学校の学習環境のあり方検討協議会ニュース」は、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校、青葉小学校、緑が丘中学校の保護者の方に配付し、光が丘地域の自治会に回覧しています。

検討協議会の結果概要と資料は、市の行政資料コーナー、光が丘公民館、陽光台公民館、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校、青葉小学校、緑が丘中学校でご覧いただけます。

第5回検討協議会

令和元年5月末ごろ 午後7時～

光が丘公民館 大会議室

事務局（お問合せ先）

相模原市教育委員会 教育局 教育環境部 学務課

電話 042-769-8282（直通）